



植民地ニ於ケル土地制度ヲ論ズ

高岡, 熊雄

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 7(6):799-821

(Issue Date)

1909-12

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051481>



植民地ニ於ケル土地制度ヲ論ズ

東北農科大學教授

農學士 高岡 熊雄

一

植民地ニ於ケル土地制度ハ植民政策上最重要ナル問題ノ一ニシテ之レガ解決如何ハ獨リ植民地ニ於ケル農業ノ盛衰ニ密接ナル關係ヲ有スルノミナラズ進ンデハ植民地ニ於ケル人口ノ増減及其繁榮商工業ノ發展植民地ノ租稅負擔力隨テ又植民地ト植民本國トノ間ニ於ケル經濟的關係等植民地全般ノ發達如何ニ至大ノ影響ヲ及ボスモノナリ故ヲ以テ今或ル殖民地ニ於テ一ノ土地制度ヲ制定セント欲セバ須ラク先ヅ植民地ハ自然的、經濟的、社會的、政治的又ハ歷史的情況ヨリ進ンデハ此問題ニ對スル植民本國ノ立場ヲモ能ク深思熟慮シ能ク個人的利益ノ増進ヲ計ルト共ニ尙能ク植民者全體及ビ國家、社會ノ福利ヲ發展シ得ルノ途ヲ講究セザル可ラズ土地問題ノ如キ事業ノ成績一朝ニ現出セズ其效果久シキニ亘ル

ベキモノハ決シテ輕々ニ處決シ徒ラニ朝令暮改ノ舉ニ出デ民ヲシテ由ル所ヲ知ルニ困マシムルガ如キコトアル可ラザルナリ

二

余ハ今茲ニ植民地ニ於ケル土地制度ヲ論究セントスルニ當リ此重要ナル問題ニ關係ヲ有スル諸般ノ問題ヲ悉ク解決セント欲スルニアラズ唯其内重ナルモノニシテ二三ヲ採リテ之レヲ研究センノミ

今茲ニ一ノ植民地アリ之ニ適當ナル土地制度ヲ施行セント欲セバ先ヅ第一ニ吾人ノ注意セザル可カラザル問題ハ植民地ハ果シテ全然無人ノ境土ニシテ未ダ何人モ茲ニ先住スルモノナキカ或ハ植民地ノ設ケラレシ際ニハ業既ニ土人ノ茲ニ住スルモノアリヤ否ヤ是ナリ此發足點ノ異同ニ依リ續テ起ルベキ總テノ土地問題ハ自カラ其解決ヲ異ニセザル可ラズ若シ第一ノ場合ノ如ク植民地ハ果シテ全然無人ノ境土ナリセバ所謂 *Herrenloses Land ist ein Kronenland* ノ法理ニ基キ未ダ土地ノ所有權ヲ有スルモノ無キヲ以テ其土地ハ全然國家ノ所有ニ歸シ植民本國ハ己レノ欲スル所ニ隨ヒ自由ニ之ヲ處理スルヲ得ルナリ往時ニ在テハ北米合衆

國或ハ加奈陀ニ於テ此主義實行セラレ近代ニテモ獨領東亞弗利加ニ對スル千八百九十五年十一月二十六日ノ獨逸帝國ノ布令ノ如キ佛領コンゴニ對スル千八百九十一年七月二十六日ノ佛蘭西政府ノ命令ノ如キ又ハコンゴ國ニ對スル千八百九十五年七月一日ノ比耳義國王ノ勅令ノ如キハ其一例ナリ

然レドモ第二ノ場合即チ植民地ノ設置セラル、以前ヨリシテ其地ニ土人ノ既ニ先住スルモノアル場合ニ在テハ第一ノ場合ノ如ク單純ニ土地ヲ處置シ能ハザルコトアリ第一ノ場合ニ在テハ植民本國ハ國家及植民者ノ權利及利益ヲ増進スルヲ以テ主眼トナシ以テ土地ノ制度ヲ制定シ得ベシト雖モ第二ノ場合ニ於テハ更ニ之ニ加フルニ土人ノ權利及其利害ヲモ亦眼中ニ置カザル可カラザルナリ國家或ハ植民者ノ感ズル利害ハ必ズシモ常ニ土人ノ利害ト相一致スルモノニアラズ否ナ寧ロ其利害ノ相反スル場合恐クハ却テ多々ナラン對土人問題ハ單ニ政治的或ハ經濟的問題ノミニアラズシテ更ニ人道ノ上ヨリシテモ之ヲ講究スルノ必要アリ事茲ニ到リテハ土地問題ノ解決ハ益々困難ヲ加フルナリ而シテ此場合ニ於テモ吾人ハ先ヅ植民地ニ於ケル土人ノ數如何ヲ考ヘザル可ラズ若シ在住土人

ノ數少ナクシテ別ニ一ノ勢力ヲ構成スルニ足ラザルトキハ之ガ解決ハ敢テ困難ナラザルモ若シ然ラズシテ其數多キトキハ彼等ノ文明ノ程度植民本國トノ人種的關係等ハ斯問題ノ解決ニ更ニ幾多ノ影響ヲ及ボスナリ

今若シ彼等土人ノ文明ノ程度ヨリ論究スルトキハ

第一 在來土人ノ文化ノ程度ハ尙未ダ幼稚ニシテ單ニ漁獵ノミヲ業トシ水草ヲ逐フテ轉々移動スルモノナリヤ

第二 將タ彼等ハ幾分カ既ニ文明ノ恩澤ニ浴シ土地利用ノ術ヲ知リ其程度ニ多少ノ別コソアレ土地ニ對スル權利ノ觀念既ニ發達セルモノナリヤ否ヤニ在リ斯クノ如ク文化ノ程度ヲ異ニスル土人ニ對シテ國家ガ施スベキ土地政策ハ又自カラ其趣キヲ異ニセザルヲ得ズ第一種ノ如キ文化ノ程度尙未ダ幼稚ナルモノニ對シテハ先ヅ

一、自然ノ成リ行キニ放任シ彼等土人ヲシテ自カラ其運命ヲ決定セシムベキヤ
二、將タ彼等ヲ保護シテ出來得ル限り文明ノ域ニ誘導スベキヤ否ヤ
ノ二問題ヲ先決セザル可ラズ今若シ斯ル劣等ナル土人ニ對シテ國家ハ何等ノ術

策ヲ施スナク何等ノ保護ヲ加フルナク文化ノ程度ノ高キ植民者ノ來リテ爲スガ儘ニ放任スルトキハ彼等土人ハ到底生存競争場裡ニ驅馳シテ互ニ相爭フコト能ハズ優勝劣敗ノ理ニ反カズ漸次其數ヲ減少シ遂ニ或ハ全然其跡ヲ地球上ニ絶ツニ至ルヤ明カナリ之ヲ歷史上ノ事實ニ照スルニ彼ノ西班牙ガ新世界ニ於テ爲シタル政策ノ如キ其顯著ナルモノナリ西班牙人ガ始メテバハマ島ニ上陸セシトキハ人口頗ル稠密ナリシガ其後千六百二十九年英人ノ茲ニ移住セシトキハ既ニ一人ノ土人ヲ見ザリシト云フ其外彼レ西班牙人ガ始メテジャマイカニ移住セシハ千五百〇三年ナリシガ五十三年後即チ千五百五十八年ニハ全島最早印度土人ノ跟跡ダモ見ザルガ如キ或ハ千五百〇八年西人ノ爲メニ侵略セラレシ際六萬ノ土人ヲ有セシエスバニョラガ千五百四十八年即チ四十年ノ後ニハ唯僅カニ五百人ヲ餘セルガ如キ或ハ千五百四十年ニハキューバ島ノ土人ハ全ク消滅シ去リタルガ如キ或ハ去テ南米ニ見ルニペルーノ如キ千五百七十五年ニハ尙百五十萬ノ土人ヲ有セシガ千七百九十三年ニハ其數六十萬人ニ減少セルガ如キハ二三ノ例證ニ過ギズ高等人種ト劣等人種ト相接觸セル際國家ガ之レニ對シテ保護ヲ加ヘザ

ルガ爲メ土人ノ滅亡セシハ必ズシモ獨リ新大陸ニ限レル特種ノ現象ニアラズ東洋亞細亞ニ於テモ亦其例少ナカラザルナリゾンバルト教授ガ近代ノ資本主義ニ於テ『吾人(西歐人)ノ富ハ吾人ノ爲メニ他ノ種族ハ滅亡セラレ又ハ世界ノ或ル地方ヨリシテ其住民ハ全ク驅逐セラレタルニ依リ増加シタルモノナルコトヲ忘ル可ラズト (Man muss nicht vergessen, dass wir reich geworden sind, weil ganze Rasse und Völkstämme für uns gestorben, ganze Erdteile für uns entvölkert worden sind)』言ヒシハ能ク此間ノ事情ヲ穿ツルモノナリ

劣等ナル土人ニ對シテ上記ノ如キ政策ヲ施ス所ニ在テハ假トヒ植民地ニ多數ノ土人在住スルモ國家ハ恰モ無人ノ境土ヲ處置スルガ如ク己レノ欲スルガ儘ニ土地ニ關スル制度ヲ設定シ眼中更ニ土人無キナリ然レドモ斯クノ如ク無智ナル土人ヲ保護セズ否ナ寧ロ之ヲ虐待シ其否運ニ陷ルヲ顧ミザルガ如キ政策ヲ施スハ人道ノ上ヨリ之ヲ論ズルトキハ非理無謀ノ舉ニシテ實ニ採ルニ足ラザルノミナラズ經濟上亦不利益ナルヤ明カナリ故ヲ以テ近來ニ至リテハ曩ニ述ベタル第二ノ主義ニ基キ成ル可キ丈ケ彼等土人ヲ保護撫育シ假トヒ彼等ニシテ高等人種

ト同一ノ程度ニ至ルマデ發達スルノ能力ナク到底競爭場裡ニ於テ互ニ相對峙スル能ハザルモ尙安ンジテ其餘命ヲ全カラシメント勉ムルニ至リタリ是レ文明ノ恩澤ナリ是レ文明ノ天職ナリ之レガ爲メ國家ハ土人ニ對シ或ハ殊更ニ植民地ノ一部ヲ割キ與ヘテ茲ニ住セシメ植民者ヲシテ決シテ彼等ニ害ヲ加ヘザラシムルアリ或ハ漸次農業經營ニ趣味ヲ抱カシメントシ幼稚ナル農業技術ヲ教ヘ或ハ農具種子等ヲ無代ニ交附スル等種々ノ政策ヲ施セルモノアルハ舉テ算フベカラズ我北海道ニ於ケル土人保護法ノ如キ法ノ精神ハ蓋シ茲ニ在リ

三

斯クノ如キ無智文盲ナル第一種ノ土人ト異ナリ幾分カ既ニ文明ノ域ニ進ミ土地利用ノ術ヲ知リ程度ニ多少ノ差アルモ既ニ土地ニ對スル權利ノ觀念ノ發達セル土人ニシテ先ヅ植民地ニ住居スルトキハ國家ハ之レニ對シテ適切ナル政策ヲ施スノ必要アルナリ今此種ノ土人ニ對シ古來植民本國ガ施セシ土地政策ナルモノヲ見ルニ其主ナルモノハ分ツテ左ノ四種トス

第一、曩ニ述ベタル如キ第一種ノ土人ニ對スルト等シク此場合ニ於テモ全然

土人ノ權利ノ何物ナルヤヲ認識セズ從來彼等ノ所有セシ土地ハ全ク之ヲ國家ニ取り上ゲ以テ其所有トナセルモノ是レ西班牙葡萄牙ガ十五世紀頃能ク行ヒタル政策ナリ

第二、 一方ニ於テハ劣等人種ト高等人種トノ接觸ヲ避ル爲メ他方ニテハ土人ノ爲メ徒ラニ廣漠ナル土地ヲ占有セラルハトキハ爲メニ植民地ノ發展ヲ妨害スルコト大ナルヲ以テ特ニ土人ノ爲メニ植民地ニ於テ一地方ノ土地ヲ區劃指定シテ茲ニ土地ノ所有權ヲ與ヘ區劃地外ノ土地ハ悉ク國家ニ收用セルモノ北米合衆國ガ亞米利加土人ノ爲メニ行ヘル Reservation system ノ如キ又ハ加奈陀ニ於テ佛蘭西及スコットランドヨリノ來住者ト亞米利加土人トノ雜婚ヨリ生ゼシ半開ノ民ニシテ半バ狩獵ヲ事トシ半バ放牧ヲ業トセル者ノ爲メ特ニマニトバノ各地ニ設ケタル Halfbreed reserve ノ如キハ其一例ナリ

第三、 植民本國ガ土人ノ土地所有權ヲ認識シ之ヲ買ヒ上ゲ以テ植民者ニ對シテ買上ゲ地ヲ處分セルモノ例之英人ガ新西蘭土ニ於テ土人マヲリスヨリ土地ノ買上ヲ行ヒタルガ如キ是ナリ

第四、植民本國ハ先住土人ノ土地所有權ヲ認メ領土以後ト雖モ從來ト異ナルナク彼等ヲシテ其儘土地所有者タラシムルモノ例之東印度或ハ我臺灣ニ於ケル土地制度ノ如キ是ナリ

以上述べタル所ハ土人ノ所有地ニ對シテ施シタル主ナル政策ナリ此等四種ノ政策ハ時ト場合トニ依リテ其利害ヲ異ニスルヲ以テ是レガ得失ハ概論スルヲ得ズ北米合衆國ノ Reservation system ノ如キ法ノ制定當時ニ在ツテハ頗ル便法トシテ稱賛セラレタルモ其後拓植ノ進歩スルト共ニ徒ラニ野蠻ノ人種ヲシテ廣漠ナル肥沃ノ土地ヲ占有セシムルノ不利不便ヲ感ジ之ニ對シテ種々ノ政策ヲ施シ千八百七十一年及千八百八十七年ノ法律ノ如キ及千九百〇三年ノウオルフ對ヒツテコツクニ對スル大審院ノ判決ノ如キ其主ナルモノニシテ益土人ノ權利ヲ縮少シ以テ益白人植民ノ途ヲ開クニ至リタリ又以テ他ヲ推知スルニ足ル

四

以上四種ノ政策ノ内第一第二及第三ノ三政策ノ如キハ之ヲ實際ニ行ヒタル後第二ノ場合ニ於テ一少部分ノ土地ヲ除クノ外植民地ニ於テハ土人ノ所有地ナル

モノ存在セザルヲ以テ植民本國ガ植民地ニ於ケル土地ヲ處分スルニハ最早土人ニ及ボス利害ヲ考慮スル必要ナク唯國家及植民者ノ利害ヨリ打算シテ之ガ處分法ヲ決定シテ可ナリ

然リト雖モ第四ノ政策ヲ行フ場合ニハ則チ然ラズ此場合ニ於テハ領土以後ト雖モ土人ハ尙從來ト異ナルナク依然トシテ土地ノ所有者ナルヲ以テ植民地ニ於ケル土地ノ制度ヲ定ムルニ付キテハ其制度ガ彼等土人ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ研究スルハ重要ナル一問題ナリ換言セバ新領主ノ統治ノ下ニ在ル土人ノ所有地ニ對シテハ更ニ如何ナル制度ヲ施行スベキカハ吾人ノ研究ヲ要スル問題ナリ古來此問題ニ關シ諸國ノ採用セシ政策ヲ考フルニ大凡左ノ三種トナス

第一、植民本國ガ土人ノ舊慣ヲ重ンジ土地ノ所有權及使用權ニ關シテハ全然從來ノ成リ行キニ任シ置キ何等之ニ變更ヲ加ヘザルモノ

第二、前者ト全然反對ノ舉ニ出デ土地ニ對スル土人ノ舊慣ハ打破シテ更ニ顧ミル所ナク國家ハ自己ノ欲スルガ儘ニ新タニ土地制度ヲ制定スルモノ

第三、ハ前兩者ノ中庸ヲ採リ土地制度ノ基礎ヲ在來ノ慣習ニ置キ之ニ加フル

ニ幾分ノ改正ヲ以テシ以テ一方ニハ土人ノ權利ヲ保護スルト同時ニ他方ニテハ植民者ノ權利ヲモ併セテ保護シ之ヲ發展セシメント勉ムルモノ是ナリ

以上述べタル三種ノ政策ノ内第一政策ニ據ルトキハ土人ハ從來ト全然同一ノ境遇ニ在ルヲ以テ彼等自身ハ假トヒ統治者變更スト雖土地ノ所有若クハ使用ニ付キテハ何等ノ不便ヲ感ゼザルナリ然レドモ一般ニ土人ノ土地ニ對スル觀念ハ之ヲ植民者ニ比スレバ尙幼稚ナルモノ多ク所有權ノ如キ將タ使用權ノ如キ確實ナルモノ少ナク時ニハ自己所有地ノ面積スラ明瞭ナラザルモノアリ斯ル場合ニ單ニ土人ノ舊慣ノミニ依ルトスルトキハ假トヒ茲ニ植民シ土地ヲ獲得シ之ガ利用ノ途ヲ講ゼント欲スルモノアルモ權利ノ不確實ナルガ爲メ幾多ノ損失ヲ被ムルノ恐アリ自カラ植民ノ動機ヲ鈍カラシメ其結果植民事業ノ發展ヲ遅々タラシムルナリ

之ニ反シテ第二ノ政策ニテハ歐洲諸國ニ於テ既ニ進歩セル法律觀念ヲ以テ直チニ土人ノ土地財産ニ適用セントスルモノナリ此政策ニテハ土人ノ財産ニ對スル習慣等ハ深ク之ヲ研究スルコトナク或ハ之ヲ研究スルモ重キヲ茲ニ置カズシ

テ多クハ植民本國ニ於テ行ハル、法律思想ニ依リ土人ニ交付スルニ完全ナル土地ノ所有權ヲ以テシ以テ土地ノ賣買、讓與、抵當等自由ニ之ヲ處分シ得ルノ途ヲ開クニ在リ佛蘭西ガアルジュリーニ於テ採用セシ土地制度ノ如キ然リトス、植民者ハ之ガ爲メ利スル所多カランモ此政策ハ恰モ赤兒ニ正宗ノ銘刀ヲ授クルガ如キモノニシテ未ダ完全ナル所有權ノ何物ナルヤヲ知ラザルモノ或ハ之ヲ知ルコト能ハザル無知ノ土人ニ對シテ斯ク一朝ニシテ進歩セル土地制度ヲ施行スルトキハ彼等ハ徒ラニ與ヘラレタル權利ヲ亂用シ之ヲ誤用シ以テ却テ自己ノ所有地ヲ失ヒ遂ニハ生計ニモ困難ヲ感ズルニ至レルハ皆然リトナス此政策ハ從來多クノ植民本國ニ依リテ採用セラレタルモノナリシガ前述ノ如キ弊害ニ陷ルヲ免ガレ難キヲ以テ近代ニ到リテハ之レニ代フルニ第三ノ政策ヲ以テスルモノ多キニ至リタリ乃チ土人ノ慣習ヲ深ク研究シ植民地ノ統治上多クノ不便不利ヲ感ゼザル限リハ成ル可ク之ヲ踏襲シ以テ彼等ノ權利ヲ保護シ安ンジテ其業ニ從事セシメ之レト共ニ併セテ植民者ノ權利ヲモ保護センガ爲メ種々ノ制度ヲ施行スルニ至リタリ例之有名ナルロバート式ノ土地登記制度ノ如キ其一例ナリ佛蘭西ガアル

ジュリーニ於ケル經驗ニ鑑ミテ隣國チュニジーニ行ヘル土地政策ノ如キ卽チ是ナリ

五

植民本國ガ植民地ニ於ケル土人ノ土地財産ニ關シテ行フベキ政策又古來諸國ニ行ハル、政策ニ就キテハ上來略其大要ヲ陳述セシ如クニシテ此問題ハ植民地ニ於ケル土地制度中ノ重要ナル一問題ナリ然レドモ吾人ガ植民地ニ於ケル土地制度トシテ更ニ進ンデ講究スベキ問題ハ植民地ニ於テ植民本國ニ所屬スル土地ハ如何ニ處分スベキヤ植民者ニ對シテ如何ニ之ヲ處分スベキヤ換言セバ國有地處分法如何ノ問題はレナリ此種ノ土地ハ土人ノ所有地ト異ナリ植民本國ハ國家及植民者ノ利害ヲ基トシテ適宜ニ之ヲ處分スルヲ得ルナリ

今或ル國ガ其植民地ニ於ケル國有地ヲ處分セント欲セバ豫メ先ヅ精細ニ植民地ノ自然的及經濟的情況等ヲ調査シ以テ植民地ノ價值如何ヲ研究シ若シ其土地ニシテ果シテ有利的經營ヲナスニ適スルモノアルトキハ國家ハ茲ニ始メテ植民者ノ來リ住センコトヲ獎勵スルナリ而シテ國家ガ來住者ニ對シ國有地ヲ處分ス

ルニ當リテハ或ハ豫メ先ヅ國有地ヲ適當ノ大サニ測定シ之ヲ區劃シ置クアリ即チ區劃制度ト稱スルモノ是ナリ或ハ土地ノ處分ヲナスト同時ニ其處分スル土地ノ面積ヲ測定シ分割交付スルアリ或ハ又別ニ實地ニ就キテ土地ノ面積ヲ測量セズ唯大凡ノ見積リヲ以テ先ヅ土地ヲ處分シ置キ他日成效ノ後精細ニ之ヲ測量シ其面積ヲ決定スルモノアリテ土地ノ取扱方法必ズシモ一ナラズ其方法ノ異ナルニ從ヒ其得失モ亦必ズシモ同ジカラザルナリ

此等三種ノ取扱方法中第一ノ方法即チ所謂區劃制度ト稱スルモノハ處理スベキ土地ノ面積廣大ニシテ且ツ平坦ナル植民地ニ最モ能ク適應セル一ノ制度ナリ北米合衆國ガ千七百九十六年五月十八日ノ法律ヲ以テ制定セル國有地區劃制度法ハ蓋シ之ガ嚆矢タリ其後西加奈陀ノ植民地ニ於テモ此法ヲ適用シ我北海道及樺太ノ區劃制度モ亦之レニ準ゼルモノナリ而シテ此制度ハ如何ナル得失ヲ有スルヤヲ研究スルニ

一、區劃制度ハ植民者ノ來リテ茲ニ住スル以前ニ既ニ土地ヲ測定シ一定ノ面積ニ區分シ置クヲ以テ土地ノ處分ヲナスニ當リ事務ハ敏活ニ行ハレ多數ノ植民

者ニ對シ迅速ニ土地ヲ交付シ彼等ヲシテ早く其堵ニ安ンゼシムルコト

二、土地ノ區劃整然タルヲ以テ土地所有者ハ自己ニ所屬スル土地ノ面積ヲ熟知シ且ツ比隣ノモノト土地ノ境界線ニ關シテ爭ヲ起スガ如キ煩ヒ少ナキコト

三、境界線ノ整然タル區劃地ハ之ト同一面積ヲ有スル土地ニシテ境界線ノ不整ナルモノニ比スレバ其線ノ長サ短ク隨テ之ニ回ラスベキ垣柵溝渠ノ費用ヲ要スルコト割合少ナク且ツ土地ノ境界ニ存置スベキ不可耕地ノ面積少ナキコト

四、所有地ノ境界線不整ナルトキハ動モスレバ土地ノ一部ヲ分割シテ徒ラニ之ヲ他ニ賣買讓與スルノ弊ニ陷リ易キモ區劃地ニ在ツテハ此傾向少ナキコト

五、區劃制度ニ據ルトキハ土地調査上製圖ヲナスニ便宜多キコト

六、區劃制度ニテハ所有地ノ各所ニ散在スルコト少ナク從テ筆數ヲ減ズルコト

七、區劃制度ニテハ境界線整然タルヲ以テ農業經營上牛馬ノ如キ動物力ヲ使用スルニ便宜多キコト

斯クノ如ク區劃制度ニハ種々ノ利益之レニ伴フト雖モ區劃制度ガ果シテ能ク

此等ノ利益ヲ與フルヤ否ヤハ實ニ此制度ヲ採用スル區劃地ノ形狀及大小如何ニ至大ナル關係ヲ有スルナリ北米合衆國及加奈陀ニテハ四分ノ一セクシヨ_ン即チ百六十英町ヲ以テ區劃ノ單位トシ北海道ニテハ五町步樺太ニテハ七町五反步ヲ以テ小農一戸ニ適スル面積トシ近來ニ至リ北海道ニテハ混同農業ヲ經營スルモノニ限り一戸十町步マデヲ無償貸付ヲナスコトヲ規定セリ區劃地ノ形狀及面積ハ時ト所トニ依リテ之ヲ定メザル可ラズ之ヲ概論スル能ハザルナリ土地制度ヲ制定スルニ當リ假トヒ區劃地ノ形狀及面積ハ適度ニ規定スルヲ得ルモ尙區劃制度ハ既ニ述ベシ如ク處分スベキ土地ノ面積廣大ナル植民地ニ於テ始メテ之ヲ實施シテ有利タルヲ得其然ラザル所ニ在テハ之ガ爲メ費用ヲ要スルコト少ナカラズ又道路ノ如キ割合多クノ地積ヲ要シ他日町村土木費ノ負擔ヲシテ重カラシムルノ不利アリ北米合衆國或ハ加奈陀ノ如キ廣漠ナル土地ヲ有スル所ニテハイザ知ラズ面積ノ割合廣カラザル其他ノ植民地ニ於テ假トヒ區劃制度ノ利益アルヲ知ツテ之ヲ採用スト雖山間僻地ノ小天地ニ至ルマデ既定ノ法則ヲ其儘一樣ニ實施セントスルガ如キモノアラハ徒ラニ區劃制度ノ亂用タル譏ヲ免ガレザルナリ

第二ノ方法即チ國家ガ土地ヲ處分スルト同時ニ土地ノ面積ヲ測定スル方法ハ處分スベキ土地ノ面積少ナキ植民地ニ於テ採用シ得ベキモノナリ然ラザル所ニテハ是レガ爲メ土地處分ニ關スル事務ハ徒ラニ繁雜ニ流ル、恐アリ

第三ノ方法即チ先ヅ土地ヲ處分シタル後他日實地ニ付キ土地ノ面積ヲ測定スル方法ハ從來植民地ヲ獲得シ諸般ノ準備未ダ完カラザル時代ニ既ニ土地ヲ交付セントスルニ當リ便宜上間々採用セシ方法ナリ是レ一時ノ便法ニ過ギズシテ其缺點タルヤ區劃制度ノ得點トナス所ト相反スル所多シ

六

國有地處分ノ準備トシテ或ハ土地ヲ區劃スルアリ或ハ之ヲ區劃セザルアリ其間互ニ一得一失アルハ上來述べタルガ如シ土地ノ準備整タル後實際ニ土地ヲ之ガ冀望者ニ處分スルニハ如何ナル方法ニ據ルベキヤ此處分法ニモ種々アリト雖大凡左ノ三種ニ區別スルヲ得

第一、國有地ヲ無償ニテ交附スルモノ

第二、國有地ヲ有償ニテ拂下ルモノ此方法ハ更ニ分ツテ一定ノ價格ヲ以テ拂

下ルモノト競賣ニ附スルモノ、二トナス

第三、國有地ヲ貸附スルモノ

是ナリ此等ノ處分法ニモ亦一得一失アリ其何レノ主義ヲ遵奉センカハ植民地ノ狀況、植民者ノ狀態、國家ガ植民事業ヲ補助セントスル程度如何等ニ依リテ之ヲ定メザル可ラズ絶對的ニ其制度ノ良好ニシテ何レノ時何レノ處ニモ適用シ得ベシト稱スルモノアラザルナリ然レドモ今此等三種ノ處分法ノ得失ヲ概評スレバ第一國有地無償下附制度ニテハ

- 一、國家ガ土地ヲ無代價ニテ植民者ニ交附スルヲ以テ植民者ハ土地ヲ獲得スル爲メ何等ノ資金ヲ要セザルナリ此種ノ資金ハ轉ジテ以テ營業資本トシ一層集約ニ事業ヲ經營スルカ或ハ更ニ一層大ナル面積ヲ有スル土地ヲ經營シ得ルコト
- 二、土地購入費ヲ支拂フノ要ナキヲ以テ資産豊カナラザルモノト雖尙土地ヲ獲得シ産業ニ従事スルヲ得從テ國家ハ割合多數ノ植民者ヲ得ルノ利アルコト
- 三、土地ノ無償下附ヲナス場合ニハ國家ハ植民者ニ對シ土地ノ開墾其他之ガ使用方法等ニ付キテ幾多ノ制裁ヲ設ケ殖民者ヲシテ成ル可ク迅速ニ且合理的ニ

開拓ヲナスベキ義務ヲモ負ハシムルヲ得從テ土地ノ開拓ヲ速カナラシムルノ便アルコト

四、國家ヨリ無償ニテ土地ナル不動產ヲ獲得スルノ便アリト云フ其事柄ガ植民的動機トナルコト殊ニ國家經濟尙幼稚ニシテ動產未ダ重キヲナサズ國民不動產ヲ愛スルノ念強キ邦國ニ於テハ尙更然リトナスコト

五、土地無償下附ノ制度ハ上述ノ如キ數種ノ利益アリト雖此制度ニ據ルトキハ國家ハ國有地ヲ處分スルモ直接何等ノ收入ヲ得ルコト能ハザルノ缺點アルコト

六、土地無償下附ノ制度ニテハ當局者若シ其人ヲ得ザルトキハ少數者ニ徒ラニ大地積ノ土地ヲ交付スル等土地ノ投機的獲得行ハレ易キコト等ナリ

此等無償下附制度ノ得失ト相反スルモノハ土地拂下制度ニシテ前者ノ不利トナスノ點ハ後者ノ最モ有利ナリトナス所ナリ今土地拂下制度ノ得失ヲ列舉スレバ

一、國家若シ或ハ一定ノ價格ヲ以テ國有地ヲ拂下ルカ或ハ之ヲ競賣ニ附スルトキハ國家ハ之ガ爲メ幾何カノ收入ヲ得ルノ便アルコト元來國家若シ植民事業ノ進捗ヲ計ラント欲セバ經營スベキノ事業頗ル多シ排水灌漑工事ヨリ道路ノ開鑿鐵道ノ布設河川ノ改良港灣ノ修築等ニ至ルマデ多額ノ經費ヲ要スベキモノアリ又植民者ノ來住ヲ獎勵スルガ爲メニモ直接種々ノ費用ヲ投入セザル可ラズ今若シ國家ガ國有地ヲ有償ニテ交附シ以テ幾多ノ收入ヲ得ルトキハ此收入ヲ以テ此等必要ナル事業ニ投入シ以テ殖民事業ノ發展ヲ計ルヲ得ルナリ

二、拂下制度ニテハ無償下附ノ場合ト異ナリ植民者ハ土地ヲ獲得スル爲メ幾許カノ資金ヲ投入スルヲ以テ自然ト其土地ヲ重ンジ且ツ少ナクトモ投入セシ資金ニ對シ相當ノ利子ヲ得ントスル念慮ヨリシテ一層開拓ニ力ヲ盡シ事業ノ進捗ヲ計ルコト

三、然レドモ一度土地ヲ拂下ルトキハ無償下附ノ場合ノ如ク土地使用上ニ關シ制裁ヲ設ケ難シ殊ニ土地ヲ競賣ニ附スル場合ニ於テ尙更然リトナス從テ土地ノ開墾等自カラ遅レ勝チトナル傾アルコト

四、拂下制度ニテハ實際ニ土地ヲ開墾シテ農業ヲ經營セントスル意思アルニアラズ唯土地ノ拂下ヲ受ケ置キ他日四隣ノ開墾進ミ土地ノ價格騰貴スルヲ俟ツテ之ヲ賣拂ハントスルモノ輩出スルノ恐アルコト

五、拂下制度ニテハ土地ヲ獲得スル爲メニ代價ヲ支拂フヲ以テ資産少ナキ植民者ハ土地ヲ獲得シテ農業ヲ經營スルコト能ハズ或ハ幸ニシテ土地ヲ獲得スルモ營業資本ニ不足ヲ感ズルモノアリ爲メニ多數ノ植民者ヲ得難キコト等はナリ

第三ノ貸附制度ニ至リテハ國家ガ植民地ニ於ケル國有地ヲ處分スルニ當リ其所有權ハ依然トシテ國家自カラ之ヲ所有シ植民者ニ對シテ或ル年限ノ間之ガ使用ヲ許可スルモノナリ貸附期間或ハ貸地料ヲ徵收スルアリ或ハ無代ニテ土地ヲ貸附スルアリ或ハ又貸附年限ノ如キモ長短アリテ各地必ズシモ一樣ナラズニユージーランドノ土地制度ノ如キ九百九十九年ノ長期貸附ヲナセリ元來此貸附制度ハ多クアングロサクソン民族ニ所屬スル植民地ニ於テ行ハル其他殊ニ發達セル市街地ノ處分ヲナス場合ニ之ヲ適用セル所アリ獨領膠州灣ノ如キハ一例ナリ此制度ノ得失如何ヲ考フルニ

一、此制度ニテハ土地所有權ハ常ニ國家ノ手中ニ在リ使用者ヨリハ貸地料ヲ徵收シ得ルヲ以テ植民者ノ直接ノ盡力ニ基クニアラズシテ一般開拓ノ進歩ト共ニ自然ニ土地ノ價值騰貴スルガ如キ場合ニ於テハ國家ハ其騰貴セル價值ニ對シテ貸地料ノ形式ヲ以テ自カラ相當ノ割前ヲ受ケ得ルコト

二、植民地ノ一弊害タル土地ノ併吞行ハレ難キコト

三、此制度ハ既ニ述ベシ如ク英國ノ植民地ニ行ハル英國ノ農業者ハ本國ニ於テモ小作制度ニ慣レ又今日ト雖尙土地ノ所有權ハ國王ニ屬ストノ法理行ハル、國ニ生活セルモノナレハ植民地ニ於テ貸附制度行ハル、モ敢テ別ニ不可思議ナル感ヲ起サルナリ然レドモ土地所有權ヲ重ンズル慣習アル國民ハ假トヒ貸借ノ期間ハ長期ニ亘ルト雖尙自カラ土地ノ所有權ヲ有セザルコトハ彼等ノ心理的作用ニ異様ナル勵キヲナシ自然ト墳墓ノ地ヲ去ツテ他ニ植民スルヲ躊躇スルノ傾向ヲ生ズルコト是ナリ

土地處分法ニ就キテモ斯クノ如ク互ニ一得一失アリ今日世界ニ於ケル植民地ノ狀況ヲ見ルニ國有地ヲ無償ニテ植民者ニ交附スルハ稀ニシテ多クハ土地ノ價

格ニ多少ノ差アルモ有償拂下制度ヲ採レリ然レドモ此問題ハ時ト所トニ依リテ其解決ヲ異ニスベキモノナレバ此等制度ノ内何レヲ採用シテ以テ植民地ノ開發ヲ計ランカハ蓋シ爲政家ノ大ニ考慮ヲ廻ラスベキ問題ナリ

吾人ハ上來植民地ニ於ケル土地制度トシテ二三ノ問題ヲ捕ヘ來ツテ之ガ解決ヲ試ミタリ植民地ニ於ケル土地制度トシテハ此等諸問題ノ外ニ尙密居村落ト疎居村落トノ優劣ノ如キ、市街地ノ設定ノ如キ、共用地問題等ノ如キ幾多ノ研究ヲ要スル重要ナル問題アリト雖餘リ長文ニ亘ルノ嫌アルヲ以テ此等ニ對スル私見ハ之ヲ他日ニ讓ラントス